

高学年

- 主題名 明るく生きる（A 正直、誠実）
- 教材名 手品師
- ねらい 相手や自分に誠実に生きることのよさに気づき、誠実に明るく生活していこうとする態度を育てる。
- 学習指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	具体的な指導・援助
導入 1分	<p>1. 今日の学習について話す。</p> <p>○今日は、あまり売れない手品師の話についてです。</p>	<p>◇時間を確保するため、教材の主人公だけを示すことも場合によっては必要です。</p>
展開 40分	<p>2. 「手品師」を読んで話し合う。</p> <p>◇範読の前に、注目しておく事柄について指示しておくことで、児童にとって考えやすいようにします。</p> <p>○手品師のしたこととで残念に思うところや素晴らしいと思うところはどこでしょう。 （残念に思うところ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年との約束をしているにもかかわらず、大劇場に出ようかと迷ったところ。 （素晴らしいと思うところ） ・大劇場に出ることをきっぱり断ったところ。 <p>○手品師は迷いに迷っていましたが、どんなことを考えて迷っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっと夢がかなって、はなやかなステージで手品ができる。 ・暮らしが楽になる。 ・友人からの期待に応えたい。 ・少年との約束を守りたい。 ・少年が待っている。がっかりさせたくない。 <p>3. 友人の誘いをきっぱりと断った手品師の思いについて考える。</p> <p>○あんなにも迷っていた手品師が、きっぱりと断ったのはなぜだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が範読する。 ・範読の前に、「手品師」の残念なところや素晴らしいと思うところはどこかに注目して聞かせるよう指示する。 <p>◇児童が教材に出会ったときの感じ方や考え方を大切に、児童の感想を生かし発問につなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手品師の心の揺れについて、役割演技を行うことで、考え方や感じ方を深める。 <p>◇役割演技を行う前と行った後とで、感じ方や考え方がどのように変わったかを発言させることで、当初の自己理解から、他者理解を通して、さらに確かな自己理解へと深まるようにします。</p> <p>◇「ただ約束をしたから」というのではなく、「約束したからには必ず」「自分の心で決めたことだから」など、手品師の生き方に関わる発言を引き出したいものです。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・少年と約束していたから。 ・大劇場で手品をしても少年のことが気になってしまうから。 ・約束したからには必ず守りたいから。 ・自分の言ったことには嘘はつけないから。 <p>4. 翌日、たった一人のお客様である少年の前で手品を演じている手品師は、どんなことを思っただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年の笑顔が見られてよかった。 ・やはりここで手品をしてよかった。 ・悔いはない。 <p>5. 自分のことを見つめる。</p> <p>○自分の心に誠実に行動できたことや、行動できなかったことについて振り返る。</p>	<p>◇生き方に関わる発言へとつなげるために、「ぼくにとっては、大切な約束なんだ」という手品師の言葉の意味についても注目して、『『ぼくにとって』とはどういうこと?』と問いかけます。</p> <p>◇誠実に行動することのよさを味わうために、「少年の様子を見て手品師はどんなことを思っただろう」「大劇場に出られなかったけど、手品師はよかったのかな」などと問いかけます。</p> <p>◇自分や相手に対して誠実に行動したことの事例を紹介することで、誠実に行動することのよさについて、実際の場面をできる限り多くイメージさせるとともに、自分についてじっくりみつめる時間を確保します。</p>
<p>終末4分</p>	<p>6. 教師の説話を聞く。</p> <p>誠実に生きている人を紹介する。</p>	<p>◇誠実に明るく生活していこうとする実践意欲や心情を高めます。</p>

<板書計画>

第〇〇回 道徳

手品師

手品師は迷いに迷っていましたが、どんなことを考えて迷っていたのでしょうか。

手品師が、きつぱりと断つたのはなぜだろう。

ネームプレート

- ・少年と約束していたから
- ・大げ場で手品をしても少年のことが気になってしまうから
- ・約束したからには必ず守りたいから
- ・自分の言ったことには嘘はつけないから

少年の前で手品を演じている手品師は、
どんなことを思っただろう。

- ・少年の笑顔が見られてよかった
- ・やはりここで手品をしてよかった
- ・悔いはない

- ・ やつと夢がかなう
- ・ くらいが楽になる
- ・ 友人からの期待にこたえたい
- ・ 少年との約束を守りたい
- ・ 少年をがっかりさせたくない

◇誠実さが、自分の内面を満たすだけでなく、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けても発揮されることをねらい、この内容項目のよさを板書で「見える化」します。

第 回 道徳 「手品師」

年 組 番 名前 ()

○次の日、たった一人のお客様を前にして、次々とすばらしい手品を演じているときの手品師は、どんな思いでいただろう。

(自分の考え)

○自分の心にせい実に行動できたことやできなかったことについて、自分をふり返ってみよう。
